

# 図書館だより

秋田大学附属図書館  
年3回刊行(4月・10月・1月)

附属図書館ホームページ  
医学部分館ホームページ

<http://www.lib.akita-u.ac.jp/>  
<http://libra.med.akita-u.ac.jp/>



菅江眞澄の道を辿って7

須郷岬の夕景、県境を越え青森県側より能代方向を見て。余りの美しさに、時を忘れて海浜植物をたずねた。「出羽の国界に入りて、菅生の崎といふものをへていささか枯生のあるに馬たち休らはせて、人もけふり吹くゆらす。」(雪の細道、奥の出羽路より)

秋田大学名誉教授 山本穆彦氏：画

## 目次

酔いどれラップと矜持のサーミ -----	2~3	ILLシステムを上手に使う法 -----	8~9
シリーズ 心に残る一冊(20) 河原崎哲 -----	4	医学部分館コーナー -----	10
トピックス		図書館カレンダー -----	11
本学教官等著作寄贈図書 -----	5	掲示板 -----	12
人事異動		編集後記	
電子ジャーナル・データベースで 文献を探そう! 読もう! -----	6~7		

# 酔いどれラップと矜持のサーミ



医学部分館長  
妹尾 春樹



書館には運営する母体・組織の姿勢があらわれる。

ある町を訪れた時にその図書館に入ってみると、込められた歴史や背景、未来へのメッセージがわかる。国立国会図書館は日本の最高の図書館だし、ワシントンDCにある国会図書館はアメリカの巨大な国力を感じさせる。姫路市図書館には姫路城の資料が豊富だし、大阪府の中之島図書館は歴史ある市民の図書館という姿をしている。

さて、私はここ数年、北欧の北極圏に住む少数民族のがんの発生に関する国際共同研究をしている。かつては少なかった大腸や乳腺のがんが日本では急速に増えており、その対策をたてることが目的である。

スカンジナビア半島の北端にサーミ人とよばれる人々が住んでいる（写真1）。民族の起源はいまだに謎で、あきらかにコーカサス人種ではない。モンゴロイドかも知れない（写真2）。

研究の結果、日本人の倍の脂肪を摂取していても、この人たちのがんの発生パターンは以前の日本人のそれによく似ていて、胃がんが多く、大腸や乳腺のがんは少ないことなどが明らかになってきた。ところで、この人達はかつてラップ人とよばれ、偏見を受けていた。ラップというのは北欧の言葉で「ぼろを着た人」とか「ぼろを纏う人」を意味する。そしてしょっちゅうアルコールを飲んで酔っばっているイメージを持たれていた（写真3）。



写真3

だから自分たちに誇りを持たず、自分がラップ人であることを恥じる傾向すらあったという。ところが世界的な潮流もあり、少数民族に誇りと矜持がめばえ、自分たちを自身がよびたい様にサーミと呼んで、この言葉が国際的にも浸透してきた。自分はサーミ人であることを隠さないで名乗り出してほしいという運動も活発である。

カラショークというサーミ人の町（北緯70度）にサーミ健康研究所があり、クベルンモ博士（写真4）を訪ねたとき、町でぜひ見ていってもらいたいのは図書館（写真5）と議会（写真6）だといわれ、案内してもらった。図書館にはサーミ語（ハンガリー語やフィンランド語と近いウラルアルタイ語族）で書かれた本が並んでいた（写真7）。もちろんささやかな書架ではあるが、民族の誇りと矜持を示していた。なお議会にはロシアやスウェーデン、フィンランド、ノールウェーに住むサーメ

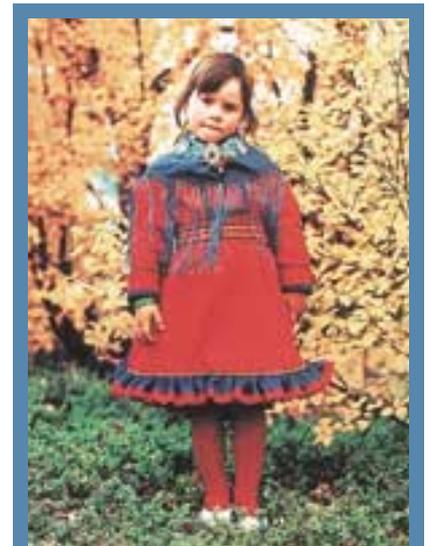


写真2

人が集まり、決定権のあることは自分達で決めているとのことであった。彼等は国民国家が形成される前から極北の地に住んでいるのだし、国境を超えてトナカイの放牧をおこなうので、それぞれの住んでいる国と折り合いながら自分たち独自の議会を持って、独立不羈の姿勢で生活している。

ところで、日本政府は全国の図書館の蔵書を充実させるために数百億円の予算を投入するし、文部科学省も子どもの読書を社会全体で推進する基本計画を立てた(秋田さきがけ、2002年8月3日朝刊)。しかし、秋田大学医学部は医学部分館の学生用図書購入予算が減った。学生用の図書は各教室からのアンケートをもとに学生諸君に読んでもらいたくて購入してきたものであり残念である。「矜持のサーミ」に近付いたのであろうか、「酔いどれラップ」への道を進むのであろうか。

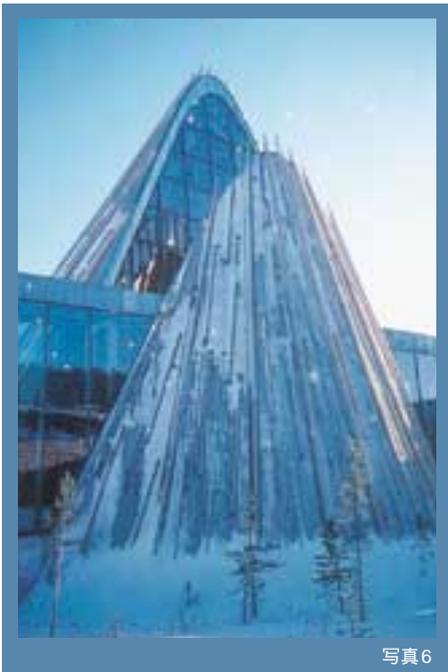


写真6

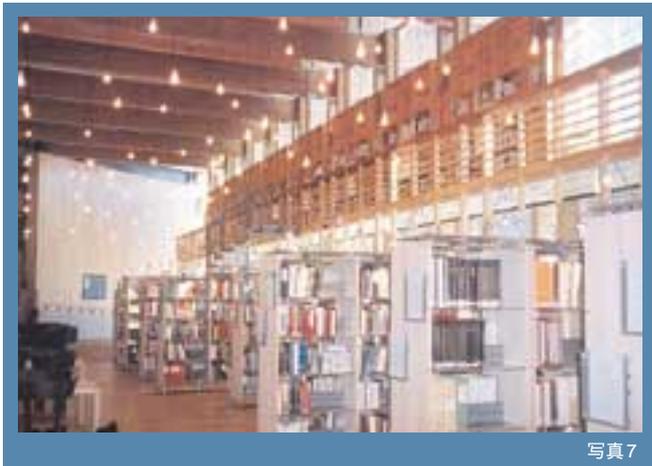


写真7



写真4



写真5

### 写真の説明

1. 国境を超えてサーミ人の住む範囲を示す。国名の後の数字は人口数をあらわす。
2. サーミの娘さん。日常このような伝統的な装いと現代的な服をともに用いている。
3. 古い書物にみられる酔いどれラップ。アルコールを代謝する酵素の活性が弱いのは日本人との近縁関係を示すものかも知れない。
4. サーメ健康研究所のシープ・クベルンモ所長(向かって右)を訪ねた筆者。向かって左は共同研究者の一人であるラングヒルド・バスビック・カルスタッド博士。
5. 図書館の外観。向こうに見える尖った屋根は議会のもの。
6. 議会の外観。
7. 図書館の内部。民族の誇りが伝わる。



# 『ペンギンの世界』

上田一生 著  
岩波親書743  
2001年 700円



河原崎 哲

ペンギンを見て嫌悪の感を示す人に僕はまだ出会ったことが無い。ペンギンは、鳥であるにもかかわらず空が飛べずずんぐりとしていてよたよたと歩きどことなく人に似ていて姿をみているだけで心が和む、元祖「癒し系」である。

しかし、この本に書かれているペンギンは、「癒し系」の姿としてではなく、厳しい環境の中で生活する生物であり、南極をはじめとした厳しい気候に住み空を飛べないかわりに驚くべき潜水能力で海の中を飛びまわって餌を

捕らえ、厳冬の中で絶食をしながらヒナを育てるといった一つの生き物としてのペンギンである。そして、今環境破壊にさらされながら過酷な世界で生きている姿である。

この本を読んだ後ペンギンを見ると畏敬の念を抱きながらも月並みであるが環境破壊や、人間と自然の関わり合いについて考えてしまう。そんな複雑な思いに駆られながらもペンギンはよりいっそう魅力的でますます虜にされてしまう存在である。

(医学部附属動物実験施設助手 かわらさきさとる)

この図書は本館2F新書版コーナー、080-195-S743にあります。

## 日曜・祝日も開館

今まで試行で行ってきた日曜・祝日開館でしたが、一部規程改正により9月1日から通年で行うことになりました。開館時間は土曜日と同じ9:00~17:00です。

この他貸し出し冊数も次のように変更になりました。

本学の学生(院生等含む) ----- 5冊まで  
学外者 ----- 3冊まで

## 図書館来訪記録 下記の高校が図書館見学に来ました

5月29日	増田高校	50人
7月1日	大館桂高校	50人
7月6日	青森県立青森西高校	48人
7月22日	秋田西高校	約30人



## 本学教官等著作寄贈図書

(平成14年2月～平成14年8月受入れ)

本学教官が著し、寄贈されたものです。

松岡 昌則	共著「地域を拓く学びと協同」	エイデル研究所	2001
小賀野晶一	著「成年後見と社会福祉(エパ°ワメントブック)」	信山社出版	2002
梶川 正弘	共著「雪と氷の自然観察(Field guide series ; 7)」	平凡社	2001
小川 信明	共著「はかってなんぼ」	丸善	2002
日高 水穂	共著「方言文法全国地図第5集(国立国語研究所報告)」	大蔵省印刷局	2002
真木 正博	著「生から死まで」	秋田協同印刷	2001 (分館)
村田 勝敬	著「Evidence Based Medicine のための医学統計」	南江堂	2002 (分館)

ありがとうございます。

図書館では本学教官の著作物(単独著書、共著書、編著書、訳書、分担執筆、学位論文)を、積極的に収集し、利用に供しています。

出版の折りには御寄贈くださいますようお願いいたします。

## 人事異動

### ●平成14年3月31日付定年退官

事務長 伊藤圭二

### ●平成14年4月1日付

氏名	新	旧
古川 澄	図書館事務長	庶務部庶務課課長補佐
大山 妙子	工学資源学部総務係学科事務主任	利用サービス係
鈴木 久美子	利用サービス係	図書情報係
柏倉 久美子	図書情報係	情報システム係
石川 奈賀子	利用サービス係	総務係
高橋 裕美	情報システム係	図書情報係
川村 千秋	図書係(医学部分館)	雑誌情報係
太田 素子	雑誌情報係	利用サービス係
田中 眞知子	図書情報係	図書係(医学部分館)
茂木 忍	総務係	入試課入学試験係

### ●平成14年9月30日付退職

雑誌情報係長 鈴木和子

# 電子ジャーナル・データベースで 文献を探そう！読もう！

情報システム係長 高橋 孝一

## 1 電子ジャーナルを活用しよう！

### ● 電子ジャーナルとは

従来の冊子体（プリント版）学術雑誌が同じ内容でデジタル化（電子化）されインターネットを通して刊行されるもので、購読者はその内容（論文等）をPCで閲覧したり印刷などができます。（大学等の機関購入誌はその構内で所属者が個人利用の範囲で利用できます）

### ● メリットとして

刊行（公開）されると世界中で即時に内容が見られる速報性、24時間利用可能、図書館に來なくとも読める、多様な検索で求める論文や雑誌が探せる、ハイパーリンクで関連論文もその場で読める利便性などがあげられここ数年急速に普及しています。

### ● 現在、

世界の学術雑誌の多くが電子ジャーナル化され、冊子体と同様に刊行されています。（プリント版を止めて電子ジャーナルのみになったタイトルも増えつつあります）

電子ジャーナルは当初、多くが冊子体購入者（機関）に対しては無料で内容全文が読めるようサービスされていましたが最近は有料化されるものが増えてきています。（冊子体とセットでの割増し価格、電子ジャーナル単独価格、各種組み合わせ：パッケージ価格など）

また世界の研究者に影響力のある雑誌を抱えた大手出版社による寡占化が進み、大学図書館では高騰する外国学術雑誌(冊子体)に加えて電子ジャーナル購入予算の確保も学術情報入手のために大きな課題となっていますが、この傾向に対し研究者の学術コミュニケーションの場の確保のために新しい学術出版（良質の学術雑誌・論文を廉価や無料で提供）を目指す動きもHighWire, BioOne, BioMed Central, e-Print Archiveなどで具体化されてきています。

### ● 秋田大学附属図書館でも

電子ジャーナル出版最大手Elsevier（エルゼビア）社のScience Direct(SD)を他の大学図書館とのコンソーシアム（共同購入連合体）で導入し、4月から購入冊子体以外の分も含めて1300近くのタイトルが全文読めるようになりました。SDのほかにも購入冊子体対応分の各出版社電子ジャーナル、トライアル（試行）期間中の各社電子ジャーナルパッケージのほか無料全文公開の学協会系タイトルも含めると2000を超える雑誌の論文が学内で自由に読めるようになっています。（利用できる雑誌タイトルの確認や全文が読める年度、利用上の注意、詳しい解説などは本館・分館HPの電子ジャーナルページをご覧ください。）

### ● 利用法の説明も

図書館で実際にPCを使って行っていますので、よくわからない方は遠慮なくカウンターに申し出てください。

## 2 データベースを活用しよう！

### ● 文献（雑誌論文など）を探すツール（道具）

としての二次資料（論文・記事索引、論文抄録集、出版目録など）は従来から冊子体、或いはCD-ROMとして刊行されレファレンスコーナーや情報検索コーナーなどで利用されています。それらを駆使して求める論文などの書誌情報（論文のタイトルや著者名、収録雑誌名、巻号、ページなど）を集め、図書館蔵書検索システム(OPAC)で収録雑誌の該当巻号が本学にあるかどうかを調べ、所蔵されていれば書庫に行き閲覧あるいはコピーを取るという手順を踏んできました。（所蔵していない場合はILLという他大学図書館との相互貸借システムでコピー取り寄せを申し込むことができます）現在も基本的にはこの形は変わりませんが、電子ジャーナルの出現によって特に外国雑誌の文献入手方法が大きく変わってきています。

### ● まず電子ジャーナル自体が

キーワード（テーマ・雑誌名・論文タイトル・著者など）で検索することができますので複数出版社の電子ジャーナル論文情報をまとめて検索できるingenta で検索すると便利です。（SDなどの該当出版社サイトで直接journal検索も可）そしてヒットした論文収録雑誌が本学内で全文読めるものであれば論文全文の利用ができます。（契約により全文不可の場合でも電子化されている多くの雑誌は目次そして抄録まで多くが無料公開されていますので論文の概要を知ることができます）日本でも学会HPやJ-Stageで内容が見られるものが増えてきました。

### ● また従来のCD-ROMの二次資料データベースも

WEB（インターネット）版に切り替わったものがあり本学ではそのうちPubMed、Engineering Village 2(Compendex)や学術情報専用サーチエンジンSCIRUSは電子ジャーナルとのリンク付けで検索によってはその場で全文が読めるものが多数ヒットします。またDocument Delivery（論文全文は有料で配信）のArticle Finderも多くの雑誌論文情報（目次・抄録まではfree）が入手できます。

### ● 他のデータベースも

各分野ごとにとっても有用なサイトがインターネットで無料公開されており、皆さんの知りたい分野の情報など図書館HPで紹介していますので大いに活用してください。

（本館HPの “ Database 検索Pt. 1, 2 ” / 分館HPの “ データベース ” ）

### 【参照】

本館HP : <http://www.lib.akita-u.ac.jp>（FullText電子ジャーナル / 資料探索と論文作成法）

分館HP : <http://libra.med.akita-u.ac.jp>（電子ジャーナル総合ページ）

HighWire : <http://highwire.stanford.edu/>

BioOne : <http://www.bioone.org/>

BioMed Central : <http://www.biomedcentral.com/>

e-Print Archive : <http://jp.arxiv.org/>

ingenta : <http://www.ingenta.com/>

J-Stage : <http://www.jstage.jst.go.jp/ja/>

PubMed : <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?holding=ijpakumlib>

Scirus : <http://www.scirus.com/> Article Finder(Infotrieve) : <http://www4.infotrieve.com/>

# ILLシステムを上手に使う法

利用サービス係 鈴木 久美子

## はじめに

去る5月23～24日、国立情報学研究所においてNACSIS-ILLシステム講習会に参加し、前任者からの引継ぎを基に自己流で処理していた業務を改めて基本から体系的に学ぶ良い機会となりました。日頃わかって仕事をしているつもりでも、認識不足だった点や更に効率的な方法など新たな発見も多く、図書館がいかに大学の研究・学習の一助となり得るかは担当者の情報リテラシーの高さに懸かっており、その重責と日々の勉強の必要性を実感しています。

## ILLシステムを知っていますか？

ところでタイトルを見て「ILLって何？」と思われた方も多いと思います。そこで今回はILLシステムの概要とスムーズな学術資料入手のためのポイントをご紹介します。先生方はもちろん、今後レポートや論文を書く必要に迫られる学生さんたちにとっても“知ってトクする”情報となるはずですので、是非ご一読ください。

## ILLってこんなに便利！

ILLとはInter Library Loan（図書館間相互貸借）の頭文字をとったもので、全国の図書館間で実施されている相互協力サービスです。これにより、見たい図書や雑誌が自分の大学に無くても、所蔵している図書館へ本の借用や雑誌論文の複写を依頼することができます。もちろん自分の大学図書館へ購入の希望を出すこともできますが、雑誌は契約購読ですし図書は国の財産として備品登録の手続きが必要なため、発注から実際自分の手元に来るまでどうしても時間が掛かってしまいます。そんな時ILLなら、特に問題がなければ今は郵便事情も良いので、九州沖縄など遠方でも普通郵便で大体1週間あれば手にすることができます。

また出版業界も厳しい不況のおりから、あっという間に絶版となってしまうためもう手に入らない、という本だって読むことができます。費用は図書借用で往復の送料、文献複写は1枚35円（一部例外あり）プラス送料となります。

もちろん送ってもらうばかりでなく、秋田大学にしか無い稀少な資料を貸してください、コピーしてください、というケースも当然あります。まさに相互協力なのです。

## ILLシステムってスバラシイ

ILLサービスのうち、所在調査や通信・連絡に係る部分をシステム化したものがILLシステムです。以前は利用者から文献複写の申込を受けるとまず、何年かに1度改訂される分厚い「学術雑誌総合目録」をめぐって該当雑誌を探し、所蔵する大学宛に郵便で申込書を送り、何か問題があれば電話でやりとりをしてやっとモノが送られてきたのですが、このシステムでは依頼・受付から相互の連絡・確認までオンラインでなされるので期間が短縮されるだけでなく、最新の書誌・所蔵データを所在調査に活用できるので迅速かつ正確な処理が実現しました。

なーんだ、それじゃ昔に比べて随分楽になったんだ...ということになるはずが、ご多分に漏れず便利になっても楽にはならないのが世の常。便利になった分取り扱い件数は依頼・受付とも年々増え、学術資料を紙媒体として自館で抱え込むことが予算的にも物理的にも困難となった昨今ILL業務はますます拡大の一途をたどり、図書館業務の大きな核のひとつとなっています。

## ILLサービス活用の前に

そんなに便利ならちょっと文献を取り寄せてみようか、と思ったアナタ！申込書を記入する前に、その資料は秋田大学にありますか？結構いるんです、図書館にある本や自分が所属する講座の図書室に並んでいる雑誌を頼んでくる人が。OPAC（学内蔵書検索システム）などを使って学内所蔵を確認してください。検索方法や配架場所がわからない時はどうぞ遠慮せず係員にお尋ねください。

最近多いのは電子ジャーナルでフルテキスト見られる論文を申し込むケースです。冊子体としての購入が無くても契約によってパソコン上で読める雑誌のタイトル数がこの1、2年で飛躍的に増えました。主に理工系の、1998年以降の新しい論文については必ずチェックしてください。現物をコピーしたものより

ずっと美しく、研究室に居ながら最新の論文をタダで読めるなんて、こんなおいしい話があるでしょうか？！

OPACと電子ジャーナル、この2つを事前にチェックするだけで無駄な申込書を相当数書かずに済みます。もちろん手放しで喜んでばかりもいられない予算・会計上のことや著作権など、深刻でデリケートな問題が電子ジャーナルにもILLサービス自体にも常に付き纏っているのですが、そういうムツカシイことはとりあえず図書館に任せて、皆さんはせっかく使えるツールやシステムの便利さをどうぞ享受してください。

## そして「ILLシステムを上手に使う法」 四つのお願い

### 其の一

申込書はできるだけ多くの情報を正確に記入してください。記載内容に誤りや不足がある場合、書誌や論文の特定に時間が費やされたり受付館がうまくその文献にたどり着けず、再び相互で確認を取り合うなど大きなロスが生じます。ISBN・ISSNやJOISの記事番号などは確実に書誌・論文を特定できるので、わかっている場合は必ず書いてください。典拠の明示や参考文献のコピーを添付していただくことも有効です。

### 其の二

速達依頼は「至急対応して」という意味を持ち、受付館に非常に負担を強いるものなので緊急やむを得ない場合にのみお申込みください。「研究室所蔵で時間が掛かります」と謝絶されやすく、かえって普通郵便より手間取るケースもあります。また速達で依頼したのに到着の連絡をしてもいつまでも取りに来られない方もいて、至急の対応をしてくれた受付館に申し訳なく残念な思いをすることもあります。外部機関や海外まで手配する必要のあるものを除き、前述のとおり普通は1週間以内に届きますのでどうぞご協力をお願い致します。もちろんどうしても大至急取り寄せる必要がある場合は、ご相談くださればできる限り対応させていただきます。

### 其の三

図書借用の場合、受付館が指定する期日までに返却しなければなりません。何度連絡しても借りに来られずそのまま返却することになって当然費用は請求されますので、長期不在の前は避けるなどお申込みのタイミングによりしくご配慮ください。また電話の場合いくらかけても通じず留守電もFAXもない、など問い合わせや到着連絡ができないことも多いため、できればメールアドレスをご記入いただくことも併せてお願い致します。

### 其の四

最後に、秋田大学は歴史的予算的規模からいって、どうしても依頼されるより依頼する件数が圧倒的に多く、日々他大学のお世話になりながらILL業務を行っております。もし研究室図書の借用依頼があった場合は、研究に支障のない範囲で結構ですのでどうぞご協力くださいますようお願い申し上げます。

以上、誠に勝手ながら日頃実務を担当して思うことを率直に述べさせていただきました。上記の点に留意し、お望みの資料を速やかに手に入れてください。

## おわりに

一日中画面に向かっての作業ですが、その向こうにいる全国の図書館員とのやりとりがこの仕事の妙でもあります。こちらの依頼を受けて雑誌を探し、該当論文をコピーし郵送してくれる「その人」を常に意識して、誠意を持って作業することを心掛けています。システムがどんなに進んでも、それを操って依頼や受付の業務を行うのは生身の人間で、最終的にはその人間をいかに上手く使えるかに懸かっているとも言えます。

近々、研究室のパソコンから図書館へオンライン入力できるweb申込みも始まります。面倒な2枚複写の申込書を手書きせずに済み、処理状況も一目でわかります。ただいま稼働に向け準備中ですので今しばらくお待ちください。更に便利になるこのシステムを使い、皆さんの手元に少しでも早く正確に資料をお届けできるようこれからもがんばりますので何か疑問に思うこと、わからないことがございましたら気軽にお尋ねください。

皆様のご理解、ご協力なしには成り立たない業務のため、あれこれお願い事を並べ立てたこの拙文を最後までお読みいただいたことを心より感謝致します。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 医学部分館コーナー

PubMedに秋大専用入口が設けられました。  
電子ジャーナルの利用が容易になります。

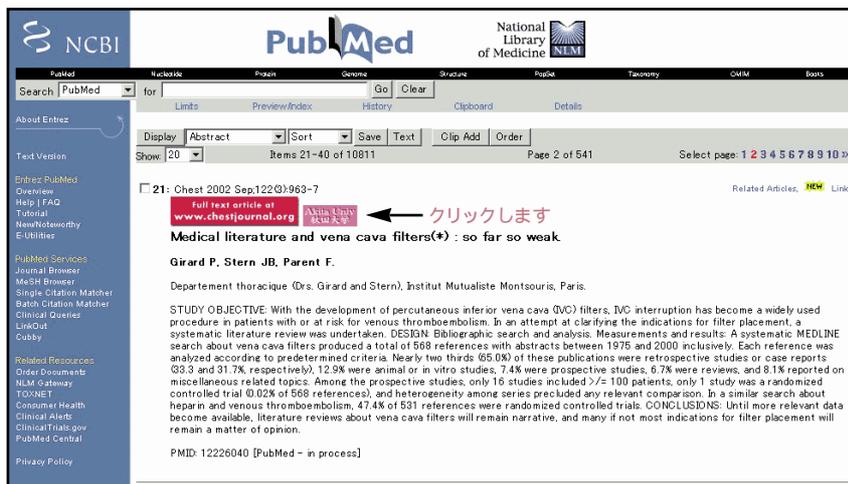
## 利用方法

(1) PubMed (秋大専用入口) から入ります。



(2) PubMedを検索し、文献を詳細表示させます。

PubMedの検索結果 (詳細表示画面)



(3) 秋田大学アイコンが出たらクリックします。



(4) 電子ジャーナルに直接つながります。

\* 利用できる電子ジャーナルすべてに、秋田大学アイコンがついているわけではありません。

詳しくは分館ホームページ ( <http://libra.med.akita-u.ac.jp/> ) をご覧ください。

# 図書館カレンダー (2002年10月~2003年1月)

休館  
 平日 8:45~20:00

長期休業期間 8:45~17:00  
 土曜・日曜・祝日 9:00~17:00



10						
月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

10						
月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11						
月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

11						
月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12						
月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

12						
月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2003.1						
月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2003.1						
月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

# 掲示板

## 教養基礎教育科目で

「ネットワーク時代の情報リテラシー」が開催されます。

10月2日から11月13日までの毎週水曜日の5・6時限です。

詳細はシラバスをご覧ください。

本への書き込み、切り抜きが増えています。

みんなの本です。大切に扱いましょう。

## 長期貸出

### 本館

【冊数】  
5冊(院生は10冊)

12月12日(木)から

【返却期限】  
1月14日(火)

### 分館

【冊数】  
2冊

【医学部学生】  
12月4日(水)から  
返却期限 1月8日(水)

【医技短大学生】  
12月16日(月)から  
返却期限 1月20日(月)

## 編集後記

子どもの頃から本を読む

のが大好き。今はそんな時間さえとれない毎日。

学生の皆さん今がチャンス。インターネットで情報を見るのも楽しく有意義だけど、時々じっくり

本を読んでみてはいかが。読書の秋、図書館がお手伝いします。大学図書館ばかりでなく、公共図書館ものぞいてみてね。

きっとお気に入りの本が

みつかるよ。



## 図書館だより 第54号

2002年10月1日発行

編集 秋田大学附属図書館出版物編集委員会

発行 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

TEL 本館018-889-2279 分館018-884-6052

FAX 本館018-832-4917 分館018-884-6252